神戈陵

第39号
題字　西　春彦 著

○発行所　川辺高等学校東京同窓会
○発行日　平成 27 年 10 月 17 日
○編集発行人　大平　政弘
○印刷所　株式会社 盈進社　☎03(3262)3471

第39回総会　心新たに！新執行部発足

平成二七年六月二七日（土）心配した雨もすっかり上がった中、新宿ワシントンホテルにて第三九回東京同窓会が開催されました。

総会に先立ち昭和四七年卒井上純一さんの司会で恒例の特別講演会があり、「年金のおはなし」のテーマで平成六年卒の社会保険労務士、有村公美子さんに講演していただきました。

現役世代はもちろん現在給付を受けている世代にも分かりやすく参考になるお話しが多く、会場の皆さんは真剣に聞き入っていました。

総会は昭和四七年卒川平悦郎さんと若松博文さんの司会で開始され、冒頭物故者に黙祷が捧げられました。

総会には大坪憲市本部同窓会会長、小屋敷浩昭校長、渡辺裕介先生及び恩師の下茂道人先生や近隣故郷会のご来賓をお迎えし、会員を合わせて二二四名が参加されました。

大平会長より「生徒数の減少は残念ですが、進学、部活動では成果を上げています。全国大会に出場するケースも多く、東京同窓会も母校の応援に取り組んでおり、同窓生の皆さんのご協力に感謝いたします。是非今日は大いに楽しんで下さい」とのご挨拶がありました。

大平会長を議長として議事に入り担当幹事より会務報告、会計報告、会計監査報告がなされ全て承認されました。次に昭和四七年卒図師田格さんを議長に選任し役員改選原案が報告され承認されました。

新役員を代表して大平会長より「会務・規則に則り同窓生の皆様の親睦に貢献します」とのご挨拶と新役員の紹介がありました。

昭和四七年卒片平英一さんと砂走智生さんの司会で懇親会に移り、来賓の紹介のあと大坪憲市本部同窓会会長より「母校に対する心遣いや支援に感謝します。入学者も近年の九〇人台から今年は一〇四人と増え、少し明るい兆しが見えてきました。この七月に中学生向けに高校体験会が予定されていますが、川辺高校の良さと先生方のご努力により学業は伸び率県下No.1をアピールしていきます」とのご挨拶を頂きました。

また小屋敷浩昭校長先生より「母校に対する同窓生の思いの高さを感じ感謝しています。規模は小さくなりましたが、生徒たちには『元気を出せ』『声を出せ』『地域の皆さんが見守ってくれているんだ』と機会ある毎に話しています。学校も一人一人の生徒達に手が届く教育が出来るようになっています。また各部活もこれまでの実績から一つ二つ上の段階にきています」とのご挨拶をいただきました。

なお先生から、この春東京に進学した平成二七年卒山下蒼介さんの紹介があり、本人の自己紹介には満場の先輩達から暖かい拍手が送られました。

引き続き、今回の同窓会の準備、運営に取り組んでいただいた昭和四七年卒の担当年度幹事の紹介があり、感謝の拍手が送られました。

昭和二七年卒中禮俊則さんの乾杯の音頭で懇談に移りました。今年も故郷から直送された定番のつけ揚げ、芋天、こんにゃくなどの郷土料理が各テーブルに並べられ、あと次々とコース料理が運ばれてきました。今年は料理をこれまでのビュッフェ方式から卓盛に変更し会員の利便性向上に努めました。料理を取りに行く手間がいらない分、懇談の時間がより多くとれたような思いがしました。

ゆったりとした地謡、三線、太鼓に合わせて「新道エイサーたこらいす」の皆さんが登場してイベントの第一部が始まりました。昨年に続いてのエイサーでしたが、特に後半では各テーブルの間に入り「踊るあほうに見るあほう。同じあほなら…」に誘われ同窓生も踊りの輪を作っていました。

第二部は知覧、川辺、南さつま出身者からなる「関東さつま南の会」の皆さんによる踊りで、南九州音頭、ハンヤ節、おはら節を披露して頂きました。こちらも同窓生が踊りの輪に加わり会場内はいやがうえにも盛り上がりました。

懇親会の最後に新旧校歌を高らかに斉唱し、昭和二五年卒松田健三郎さんの力強い万歳三唱のあと南谷副会長より「来年は第四〇回という記念の同窓会で、大平会長以下企画を練りに練って皆さんをお待ちしますので、ぜひ来年もよろしくお願いします」との締めの挨拶で閉会しました。

（昭和三八年卒　堂園俊秋）

母校の発展と同窓会

東京同窓会会長
昭和三四年卒　大平政弘

東京同窓会会員の皆さまには，お変わりなくご健勝のことと拝察申し上げます。

本年六月の第三十九回総会は、昨年に続いて、二百名を超す会員のご出席をいただいて盛大に開催することができました。ご出席の会員の皆さま、年度幹事、そして、ご協力下さった多くの方々に篤く御礼申し上げます。

さて、昨今の教育界では、家庭の豊かさや都市と地方との社会的経済的格差によって、子供たちの学力格差が生じている、と言われますがこれは残念ながら現実のようであります。わが母校も、百十余年間，有為な人材を輩出し続けて来たのでありますが、地域事情から入学者の確保にさえ苦しんで、かつ、このような厳しい教育環境にあるわけであります。母校の先生方の御苦労が察しられます。

しかし、母校の後輩たちは，進学やクラブ活動に立派な成績を上げており、先生方の熱心なご指導の賜物だと感謝しております。

私共卒業生は、後輩の各自が自分の将来の夢や希望を実現するための基礎を築く教育を願っています。それが〝行きたい学校、行かせたい学校〟であり、母校がそうなることを期待しているのです。

さて、東京同窓会は来年第四十回の記念すべき年を迎えます。思い返しますと、この間に、創設の功労者室屋数盛さん、中興の祖とも言うべき下園市男さん、同窓の名を高めてくださった西春彦様、川野重任先生、川口幹夫様等々、多くの大先輩を喪いました。私達はこういった先輩方の思いを継いで会の運営に当たって参ります。今までも会員の皆さまには物心両面にわたり多大のご支援をいただいてきましたが、今後ともご協力の程お願い申し上げます。最後になりましたが、会員の皆さまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

母校まで徒歩三分
川辺高校近くに91室のAZ（アメイズ）ホテルが開業

同窓会会長
昭和四一年卒　大坪憲市

関東各地、各分野で大活躍されていらっしゃる東京同窓会の皆様には、いつも母校に対し熱いご支援を賜り深く深謝致します。平成二七年度東京同窓会総会も役員の皆様方のご尽力で二三〇名もの参加で盛大に催されました事に深い敬意を表す次第でございます。

母校の現状について報告致します。二七年春の卒業生は国公立大二五名（短大含）でした。又、新入生は百四名と昨年より微増致しました。先生方や生徒達の頑張りで、よく健闘した方だと思います。来年度入学希望者を対象とした川辺高校体験入学が七月二四日と八月二〇日の二日間行われました。昨年百六名に対し今年は二〇〇名弱の中学生が参加してくれました。当日は在校生、先生方、ＰＴＡ役員、同窓会役員から川辺高校のアピールがなされ、来年こそは定員いっぱいの入学者があれば、と関係者一同強く期待しているところであります。

九月五日（土）は、母校恒例の神戈陵体育祭が開催されました。連日雨が続いていましたが当日だけが天気に恵まれ、皆楽しい一日が過ごせました。神戈陵のもと、徒競走や応援合戦などを見ていると在学時代を思いだし、胸のたぎる思いが致しました。

母校では先生方も夜遅くまで熱心、丁寧に指導下さり、在校生、父母の皆様方から川辺高校にはいってよかったと喜ばれております。部活やボランティア活動にも積極参加、地域の評判も上々です。このように在校生、先生方の頑張りで川辺高校も人気上昇中です。

又、うれしいニュースです。母校同窓会副会長の薗田政嗣氏の薗田製材所跡地に亀の井ホテル系列のＡＺ（アメイズ）ホテルが開業、一泊朝食付四八〇〇円、インターネット申込四六〇〇円（全室インターネット使用可）です。ぜひ、帰省の際は、ご活用いただき母校へもどしどしおこし下さることを願うところです。

最後に、東京同窓会の皆々様の御健勝を心からお祈りし、今後とも、母校発展の為、さらなるお力をお貸し下さいますようお願い申し上げます。

「未完成であること」

校長　小屋敷　浩昭

朝夕、大気が澄み渡るようになるにつれて豊饒さと情趣深さは日ごとに増し、月や道端の草花などにも秋の深まりを感じる候となりました。

旧暦8月15日の月は、中秋の名月と称されています。この夜、雲などで月が見えないと無月、雨が降ると雨月とも表現されます。その前後の日を待宵、十六夜と呼ぶなど、自然と共生してきた日本人の感性の豊かさを示す言葉だと言えます。鎌倉時代、「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」と、兼好法師は徒然草に記しました。美とは完璧なものにだけ存在するのではなく、不完全だからこそ生じる「美」があることを指摘しているのではないでしょうか。余情とか、余韻とかいったものかもしれません。それまでの伝統的美意識に一石を投じ、新たな境地を切り開いたと言えます。

4月、新しい学校行事として、加世田高校とのスポーツ交歓会を実施しました。この取組は互いの親睦を図るとともに、辺高生としての自覚と帰属意識を高めてくれたと思います。正門で門礼をして登下校する、素直で礼儀正しい生徒の姿も今まで以上に増えてきました。また、地域活動の一翼を担うことで生徒たちは自信を深め、県外交流、国内外の交流研修など、様々なことに挑戦する姿が見られるようになりました。文化面でもエッセーや短歌の全国コンクールで入賞を果たしています。荒削りで「未完成」な面はありますが、心身ともに成長していく姿を想像するのは楽しみです。皓々と輝く中秋の名月のように、各自の完成形を目指してほしいものです。生徒たちは伝統を肌で感じながら、文武両道の実現に向けて日々奮闘しています。

最後になりましたが、東京同窓会会員の皆様方におかれましては御清祥のことと拝察いたします。また、平素から母校の教育活動に深い御理解と多大な御支援を賜っておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。併せて東京同窓会の、今後益々の御発展を祈念いたします。

びっくりの連続

恩師　下茂道人

二月二十日に一通の封書が届きました。差出人を見ると、懐かしい記憶のある名前の川辺高校昭和四十七年卒の図師田格君からでした。何の連絡かなと、内心うれしさ半分、不安半分の気持で手紙を読みましたが、そして〝びっくり〟何と川辺高校の東京同窓会に恩師として出席してほしいとの丁寧な依頼文でした。最初は何で俺れなんかが？　と言う思いでしたが、手紙の文末に四十七年卒の思い出のある諸君の名前が連記してありました。これはこの機会を逃したらもう一生この諸君とも会うことはないなと、思い直し、参加することを決断しました。

その後、同窓会の幹事長の小原東洋明さんより具体的な連絡をいただき、六月二六日現川辺高校同窓会長の大坪憲市さんと、川辺高校同窓会係の渡辺裕介先生と無事新宿のワシントンホテルに着くことが出来ました。

その夜、交流会がありましたが、さっそく年度幹事である四十七年卒の四人の諸君と話しをすることが出来ました。本当にうれしいでした。

明くる日の同窓会総会に出席してまたまた〝びっくり〟東京近郊在住の川辺高校同窓生が約二百三十名程集まった。本当に大きな同窓会でその熱気のある総会に驚きを隠せませんでした。その中で現川辺高校長である小屋敷浩昭先生が挨拶され、在校生もそれぞれの分野で神戈陵精神を持って一生懸命頑張っていることなどが紹介されうれしく感じました。

総会終了後、四十七年卒の諸君と別会場に移り会食を共に楽しみましたが、またまた〝びっくり〟四十七年卒の川平悦郎君が東京都の私立高校の校長先生になっていたこと、その活躍ぶりを聞いたこと（ちなみに彼は私の大学の後輩）には喜びを隠せませんでした。その外、井上純一君が同じく私立中学校の技術家庭の先生になっていたこと、その合間をぬって自転車で鹿児島に帰郷したという経験などを聞いたことなどです。その他の諸君もそれぞれ元気で頑張っていることなど耳にして、本当にこの同窓会に参加して良かったとしみじみ思い出しています。これが俗に言う教師冥利につくと言うことかと、初めて肌で感じることが出来ました。

最後に川辺東京同窓会と四十七年卒の諸君が今後も益々発展することを期待し、皆様の御健勝を祈念いたします。

四十七年卒の諸君ありがとう。

陵友だより

伝統文化の継承

昭和二三年卒　田口精一

「故郷は遠くにありて思うもの―」の言葉が身に沁みる昨今です。諸兄姉の心境や如何に？　世代、経緯によって様々だと思います。物理的には近くなったのに、心理的には遠くなった現実に戸惑いと消し難い負い目を抱く私です。住む人の居なくなった屋敷に、今は都市と寸分変らぬ近代機器が整い、庭の向うの道は完全舗装され、収穫前の田畑が続く。これが現代の生家の姿。変らないのは山並、そして堆肥混じりの懐かしい空気の臭い。何よりも懐かしいのは声高に呼びかけてくる近隣のお国言葉だ。峠一つ越えただけで変る語尾の変化。そして、頭上に収獲を乗せた枕崎漁婦の「鰹節はよろしごわんどかい」と歌う様な独特のイントネーションに文字通り南国を味う。しかし上京を選んだ少年は、これらを束縛と感じ、後進文化からの脱出感、解放感に胸踊らせた。時代は、敗戦国に新しい文化が到来、遅れを取り戻すため、古き伝統の放棄に専念、生れ変り進歩し続け、高度成長の戦士と自認し胸を張っていた。初心から進路変更し、演劇というジャンルに転向、方言というハンデに直面する。難解度最高と称せられる鹿児ンマ弁の持ち主は、標準語で成り立った舞台に通用するには格別の努力が求められ、放棄する者が続出した。そんな或る日大先輩から声を掛けられた。「君たち、地方出身は私達東京人間には望んでも得られない貴重な財産を持っている事を忘れてはならない。君たちには、正確な地方言語の継承者としての責任がある」言語は文化であり、地域の歴史の証しであると告げられ励まされた。

今年の新入生の中に久し振りに鹿児んまおごじょが現われた。自己紹介がなければ、全く普通の都会の若者、方言のかけらもない完璧な近代女性なのだ。TV文化の定着によって、難問は見事に克服されている。感謝すべきだろう。然し、此処で新しい問題に直面する。それは、地方文化ではなく、日本文化の問題といえよう。即ち、舞台上の会話の存在感が問われているのだ。

「丁寧に綿密に描き込まれ、実に上手いのだ。しかし、ドンと心に響いてこないんだよネ」美校時代の大先輩の嘆きを聞き、即座に「私たち演劇の世界も同様です」

「年々おかしくなる。困ったものだ。真実を求め続けて90を過ぎて仕舞ったが、まだまだ見えない」

葉書大の小品といえども全力投球をする先輩の淋しい声に、今は亡き宇野(重吉)さんの声が重なった「見てくれ芝居ばかり。嘘だ。心根がない。君達は本当に人間が好きか。真剣に人を愛した事があるか。恋人だったら、より深く知りたいと努力するだろ、目の表情、声の変化に集中、色々と想像した筈だ。言葉は記号ではない。文化だ。人生の反映だ」TVの映像とスマホ情報で筋が分れば消去、新しい消費物件に移行する。創る側も効率優先で虚構の世界の話に責任はなく。勿論、視聴者も期待しない。

理解してもらうには体験しかない。新人と共に下野敏見兄から頂戴した『ふるさと昔話』で血の通った語りの学習に取り組むことになった。まだ、くだばるわけにはいかない。

古稀過ぎのボヤキ

昭和三四年卒　鶴園恭弘

古来稀なる七〇歳（信長が桶狭間の戦いの出陣に際し、人生五〇年下天の内をくらぶれば　夢幻の如くなり　ひとたび生を受け滅せぬもののあるべきか……と舞った頃の五〇歳が今は八〇歳まで伸びているようですが）を経て、ついに後期高齢者の仲間に入り、平均余命まで五年余り、そろそろ終活を考えねばならない年齢となりました。大かたの皆様と同じように気だけは若いが身体が・・・と言う悲哀を否応なく自覚させられる今日この頃でもあります。

この年齢になると限りある生命、悔のないように全うしたいと誰しも願うのではと思うのですが、とは言っても凡人たる身にとっては、情けないことに具体的に何をやるかと言うと何もない。

囲碁・将棋・麻雀・釣り・テニス・山登り等々趣味と呼ばれるものにはなんにでも手を出し、それなりに一応熟した積りではあるが、今は飽きたのか気力がなくなったのか、ほとんどのものに興味を喪失して残ったのは唯一ゴルフと稀に市から依頼されるボランティアのみとなった。暇々に積んどいた本を今こそと読書に精出しているが、如何せん眼力がついていかない。眼鏡は要らないのであるが三〇分も読み続ければ疲れて投げ出しているのが現状です。

結局は、現役時代の仲間との会誌に見つけた次の詩に共感し、このように生きればよいかな？と言うのが結論でした。もう少し建設的な活動と生き方をしたいのに情けない。

長生きしなはれ　ボケたらあかん

一、年とったら出しゃばらず
　憎まれ口に泣き言に
　他人の陰口　愚痴言わず
　他人のことは褒めなはれ
　聞かれりゃ教えてあげてでも
　知っていることでも知らんふり
　いつでも　アホでいるこっちゃ

二、勝ったらいかん負けなはれ
　いずれ　お世話になる身なら
　若いもんに花持たせ、
　一歩下がって譲るのが
　円満にいくコツですわ
　いつも感謝忘れずに
　どんな時でも　ヘェおおきに

―中略―

三、昔のことは　皆忘れ
　自慢話はしなはんな、
　わしらの時代は　もう過ぎた、
　なんぼ頑張り力んでも
　身体が言うことききまへん
　あんたは偉い　わしゃあかん
　そんな気持ちでおりなはれ

四、我が子に孫に世間様
　どなたからでも慕われる、
　ええ年寄りになりなはれ、
　ボケたらあかんその為に
　頭の洗濯生きがいに
　なにか一つの趣味もって
　せいぜい長生きしなはれや

〝テレビ無し〟でダイエット

昭和四五年卒　足立玲子

最近、二年ほど、夫婦でメキシコで生活する機会を得た。首都での生活は、ウォシュレットこそ見当たらなかったが、近代的な東京となんら遜色なく、気候も良く快適だ。

「せっかくの外国なんだから、なるべくこちらに馴染もう」との夫の一言で、テレビ・パソコン・新聞までなく映像を見ない生活となった。もちろん契約さえすれば、リアルタイムで日本の放送は入るし、新聞は朝10時には配達可能だったが。

夫は朝7時に出勤し、夜7時に帰宅する。日中12時間、家事をしてもかなりの時間が、ぜいたくにもヒマとなった。読書やCDはすぐ飽き、かと言って町を勝手にふらつくわけにもいかず、もっぱら近くの公園へ出向く。昔、王様の狩場だったという公園は、大木が残り、治安も良く市民の憩いの場だ。端まで行くのに2時間もかかりとにかく広いのだ。その日の気分で足の向くまま、2・3時間はざらだ。ベンチで一休みの人物観察も楽し。

三カ月ぐらいからウエストに変化あり。そのうち服も買い換えるほどに。顎はとんがり人相も変わって来た。

以前、韓国ドラマにどっぷりハマっていた頃、いったい一日何時間テレビの前に座っていただろうか？

異国という特殊な条件下ではあったが、〝テレビ無し〟が7キロのダイエットとなったというわけだ。

他にも、生活スタイルの違いで掃除はモップ主流のところを雑巾がけ、洗濯機はあまりに大型で使いづらく、タライを買い、手足を洗い、体はよく使いました。

しかし帰国したその日から、よごれ物は洗濯機に任せ、掃除機は復活、テレビは元の木阿弥、ウエストの変化に、あわてている今日この頃です。

ラグビーに明け暮れた日々

昭和六三年卒　上塩入浩一

今年まもなく第八回ラグビーワールドカップがイングランドで開催されます。次回が四年後に日本で開催される事もあり、各メディアで少しずつ採り上げられて盛り上がりを感じつつある今日この頃です。

第一回大会が行われた一九八七年

当時、まだ高校三年生の私は、はやる気持ちを抑えつつ、中継されるテレビの画面に食いついていた。もう二八年も前の事なのに、まるで昨日のことのように思い出されます。

私の川辺高校で過ごした青春時代は、学生としての勉学はそこそこに、ラグビー部での部活動に全精力を費やした三年間でした。気合いの入った先輩のかけ声を聞き、勇姿を見て、自分もこんなかっこいい男らしい人間になりたい、と思って入部の挨拶をしたのは入学早々の事でした。挨拶に始まり、体力作りの基礎練習、グラウンド整備、先輩のラガーシャツの洗濯、部室の掃除、ボール磨きと、同期の仲間と一緒に泣いて笑っての下積みをしながら、少しずつ理想とする先輩の後ろ姿に近づきたいと、願う時を過ごしました。神戈陵で首を鍛える為にブリッジをしたり、大雨の中、池のように水の溜まったグラウンドでセービングの練習ですべり込んだ

り、グラウンド工事で校内練習ができない時にはタックルマシン等をかついで諏訪グラウンドへ走って行って練習をしたりと、炎天下の真夏も寒風吹きすさぶ真冬も、日が暮れて真っ暗に、そして真っ黒になるまでラグビーに明け暮れる日々でした。当時の私にとってはラグビーに汗を流す事こそが、それすなわち、生きているという実感を得られる充実した貴重な時間であったと、今にして懐かしく思い出されます。

そんな中、川辺高校東京同窓会に参加させて頂き、ラグビー部創成期の先輩と知りあえて非常に光栄に思い、また新たな気持ちで先輩の背中を追いかけたく思っております。

同窓会に出席して思った独り言

昭和五一年卒　川原満年

毎年、同窓会の時期になると、幹事の方から、一筆頂きます。それでも私は、煮え切らずにおりました。そんな私も、一昨年度から二年続けて出席させていただきました。

以前の私は、お誘いを頂いても、なんだかんだ理由をつけて、欠席しておりました。申し訳ありませんでした。

何年も前のことですが、私達昭和五一年卒が幹事の年がありました。大勢の出席者で、それはそれは賑やかでした。でも、一昨年度の出席者は五名と、寂しい限りでした。

今年は九名と少し賑やかになってきました。「よし、調子良くなってきたぞ。」

懇親会の席は卒業年次ごとに準備されており、簡単に同級生と対面出来るように配慮されていました。このようになっていないと、盛大な同窓会なので、やんちゃな高校生の頃からは成長した同級生を探しだすのは大変だろうなと思います。特に一段と美しくなられた女性の皆様を探しだすのは。

でも、私達の年度には大きな問題がありました。二年続けて、男の出席者は、「おいどん」が一人だけでした。酔った勢いで思わず、同級の女性たちに男の本音を呟いてしまいました。「同窓会の男の会費は高い。でも、薩摩隼人は口が裂けてもそんなことは言えない。」すると、薩摩おごじょ達に叱咤激励されました。なかには、「自分達女性の会費が少しぐらい高くなっても構わないから、男性の会費を下げてでも出席者を増やすべきよ」と。

鹿児島は、未だに男尊女卑だとか勘違いされているようなので、そのような間違った風評を変えるべく、女性をもっともっと、いたわり、飲酒は節度を持って、「ヤマイモ」を掘らないようにしたいと思います。

望郷

昭和五四年卒　三宅保弘

様々な時間を過し、気がつけば五〇歳半ばを迎えております。英国の詩人の言葉で「いくら長生きしても最初の二〇年こそ人生の半分だ」とあり青春時代を振り返れば胸に響く名言だと思います。最近は五～一〇年前の記憶ですら中々思い出せませんが、川辺高で過した三年間は瞬時に想起されます。個人的な感覚ではありますが共感される方も多いのではないでしょうか。凄く濃い時間が流れていて、何十年経過しても色が褪せる事なく寧ろ色鮮やかさえなっていくような気がします。学友同志将来の夢を語った事、部活動や勉学で壁にぶち当ってもがいた事、秘めたる恋

心の事、今も会話がすぐに聞こえてきます。

その時代の夢や野望を一つ一つ失ったり、忘れたりして、今を過ごしています。

我が郷土の英雄、西郷隆盛享年四九歳、大久保利通享年四七歳、彼等は、何れも志半ばでこの世を後にしました。功績については、申し上げるまでもありません。

私の半生と比較する気はありませんが、気がつけば、私はもうすでに両偉人の彷徨った事のない時空に身を置いております。飛行機も新幹線もなかった時代に、どの様な想いを抱いて東京・鹿児島間を何往復もしたのでしょうか。今頃よく、郷里や母校の事を思い浮かべる事があります。大きな事はできませんが、忘れていた何かを探すためにも、心の動くまま、自分が育った場所、学んだ母校への恩返しをみつけられる、小さな一歩を歩き出したいと思います。

感謝と向上心

平成二七年卒　山下　蒼介

川辺高校を卒業し、東京という新天地に少なからず不安を感じていましたが、大きな問題もなく六ヵ月が過ぎました。日本大学芸術学部演劇学科演技コースで役者になるための勉強をしながら、知らない土地で知らない人たちと過ごす日々はとても新鮮で、良い経験と充実感を得ています。

さて、六月に開催された東京同窓会に私も参加させていただきました。大先輩の方々と会うことにとても緊張していましたが、皆様が鹿児島弁で優しく話しかけてくださり、緊張がほぐれてたくさんの方々とお話しをすることができました。イベントも賑やかで、とても楽しかったです。さらに、先輩方の高校時代や、今の仕事など様々な話を聞くことができ、貴重な時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございました。来年も再来年も機会があれば参加したいと思います。また、こんなに楽しい同窓会です。同年代の方々にもぜひ来ていただきたいです。

夏休みに帰省した私は先日、川辺高校の体育祭を見に行きました。懐かしい先生方や、一生懸命に、それでいて楽しそうに走る生徒たちを見ながら、つい数ヵ月前の高校生の自分を思い出していました。勉強や生徒会活動、知覧の劇団での活動など、様々なことを経験しました。その経験が自信になったことで、大学受験も臆することなく挑戦でき、合格できたのだと思います。川辺高校で頑張れたから、今の充実した自分がいるのです。さらに、家族や友人、先生方が応援してくれたから諦めずに頑張り続けることができました。たくさんの方々への感謝を忘れることなく、あの頃の向上心を持ち続けて、これからも夢に向かって努力していきたいと思います。

よもやま話三部作

昭和四五年卒　有薗　茂矢

昨年六月の東京同窓会で同級メンバーに妙に受けた冗談をご披露する。伝承、創作、妄想等が混然となった話題とご承知おきください。

小話　一・・・コラダイ

川辺町本別府に川原と言う集落がある。山間（やまあい）の長閑（のどか）な所で台地状の地域である。この集落を昔は『コラダイ』と呼んでいた。今でもそう呼ぶ人もいる。人気（ひとけ）がない場所が多いし、風とか小動物とかで音がすると、不気味なので、『こら、だいか（こら誰か）』と叫んだそうである。

言語学風に類推すると、川原台地が訛って「こらだい」になったが妥当である。すなわち、「こらだい」の四音は、以下であろう。

こ……川は、河や江と同じく、「こ」とも読む。

ら……原が短縮されて、「ら」だけを発音するようになった。

だい……台地の「だい」のみ発音するようになった。

小話 二・・うそごえ

昔は、集落名が一つでなく、別の呼び名があるところが多かった。川辺町の菊原と言う集落もそうである。昔の別名を『うそごえ』と言う。集落の入口の川を渡ると獺越橋（うそごえばし）と彫られている。すぐに思いつくのは、今は絶滅したニホンカワウソが越える所なのだろうか。あるいはカワウソでなく、伝説上の鷺とか、妖怪の類のウソかもと面白がる面々もいる。私は近年、周辺を二時間ほどかけ一人で五回ほど歩いてみた。ほとんど集落に着くまで一人も会わない、一台の車にも会わない。今でこそ道路は舗装されているが、大昔は杣道（そまみち）とか、けもの道に近かったのではと想像する。山の中を一人で歩いていると、風が木を揺らす音や、たまに竹が割れる音で何者かを感じる。そして、自分の足音だろうが、後ろからヒタヒタ、ヒタヒタと、何かがついて来るような錯覚にもなる。これがウソだと、昔の年寄は言った。あるいは、河童が、「ヒョーヒ、ヒョーヒ」と鳴きながらついて来たらしい。

小話 三・・自分の所が一番・・青い鳥は近くに？　井の中の蛙？

川辺町勝目付近と一部本別府付近の山間の昔話の変り種である。

山の一番上の集落の土喰（ツックレ）の住人は下を見て言う。下の連中は下の方で忙がしそうで大変。我々が一番幸せだ。

ちょっと下の集落の屋敷平（ヤシキンデラ）の住人は言う。上は高い所まで登らないといけないし大変、下も忙がしいので、我々が一番幸せだと言う。

さらに下の集落の大久保（オッゴ）の住人は言う。

上の連中も山の上で不便な生活しないで、降りてくれば良いのに。我々の所が一番幸せなのに。（実は大久保も低所の集落とは言い難い）

担当年度幹事から

昭和四七年卒　砂走智生　鎌迫妙子　片平とも子　圖師田格

私たち四七年卒が東京同窓会の幹事年度であるということで、今年一月に関東在住同級生二九名に葉書で連絡したら一〇名ほどが駆けつけてくれ、本番に向けた打ち合わせを渋谷でランチしながら行いました。久しぶりの再会に昔話で盛り上がり、肝心の準備話はほんの数分という状態でした（笑）。

それ以降は、事務局の方々のシナリオに沿って一つ一つ準備を整えていくだけでした。事務局の方々のご尽力に只々感謝です。また、会合や懇親会を重ねる中で、同級生同士は勿論、事務局の先輩・後輩との親睦が深まり、とても楽しく、いい思い出となりました。特に二次会での飯田橋にある昭和的カラオケ屋では年次を超えて盛り上がり、結束できたと思います。

さて、六月二七日の本番は二二〇名を超える参加者をお迎えし、四七年卒は二三名で受付・会計や司会の役割を分担し、慣れないながらも何とか無事終えることができました。会は、高校の近況、エイサー、薩摩踊り等盛況で、あちこちのテーブルから鹿児島弁での会話や笑い声が聞こえ、皆さん楽しんでいるのが感じられ、とても嬉しく安堵いたしました。

最後は、全員の新旧校歌の斉唱で、大いに盛り上がりました。終わった後も頭に残り、帰り道につい口ずさんでしまうほどでした。

終了後の年度幹事打ち上げに恩師の下茂先生も参加いただき、高校時代の話で大変盛り上がりました。先生から「呼んでもらって本当にありがとう。退職してから一番嬉しかった」とのお言葉をいただきました。皆で相談しながら選んでお招きして本当によかったなぁと大変嬉しく、幹事冥利につきました。

同窓会は毎年開催されますので、今後も沢山の方が参加いただければと思います。

図師田　格

今回の経験から、「同窓会」は、機会創出の場としてたいへん貴重であると強く思いました。「結婚式」「葬式」など含め、少し形式張った会合は、若い頃は少し軽んじておりましたが、年を重ねるにつれ、それぞれ

の会合に「人との出会いの場」という意味合いがあることを肌で感じ、ありがたく思うようになりました。

この同窓会も第三九回と歴史を重ねてきましたが、私はその第一回創設の事前打ち合わせ（銀座の風月堂）やパーティ（目黒駅近くの薩摩ゆかりの会場）に参加しました。まだ二〇代半ばでしたが、同級生も大勢集まり、パーティー、二次会と大いに盛り上がった楽しい思い出があります。その後三回くらいまでは参加率も高く、多くの出会いがありましたが。世代的に家庭や仕事が忙しくなり、徐々に参加者が少なくなったのは少し残念でした。

個人的な思いではありますが、六〇歳を過ぎると、これまでの子育てや仕事から徐々に解放される一方で。ややもすると目標を見失ないがちになります。旅行や趣味だけではたして八〇歳までの二〇年間を楽しく過ごせるか不安です。特に男性は生きがいを肩肘張って考えがちで、日常の今そこにある小さな幸せに気づかないことが多いように思えます。

そんな折、近頃では職場以外の同年代の友人や先輩方の色んな生き方を聞くことが楽しく、また参考になると感じます。今後もなるべく色んな会合への参加を心がけ、残りの人生を楽しみたいと思います。

一方で、若い世代にとっても、この同窓会を同級生の集まりの場として、また、先輩後輩との情報交換の場として活用していただき、まだまだ長い人生を豊かにして欲しいと思います。

東京川辺同窓会が末永く続くことを祈念いたします。

母校だより

川辺高校の概況

南薩学区（南九州、南さつま、枕崎、指宿市）内の普通（科のある）高校四校は少子化の影響でいずれも募集定員割れの厳しい状況にあります。

母校も三クラス募集となり、合格者も九五名、九七名と一〇〇名を切っていましたが、二七年度は一〇四名と久々に一〇〇名の大台を超えました。

指宿と川辺の学区が南薩学区として一つに集約され、さらに一定枠の制約が無くなり学区以外からの受検が可能になりました。また普通科を志望する生徒が増える傾向にあるなど母校にとって必ずしも逆風ばかりではありません。地理的にも学区の中央に位置し、通学の便も良く出身中学も広汎になり、引き続き魅力ある高校づくりを推進すれば、母校は一層活性化されること間違いなしです。（表①②参照）

進路状況ですが、非常に厳しい中で先生方の並々ならぬご尽力により一定の実績は上げ得たと思います。（表③参照）

部活動等抜粋

野球部

二七年五月　ＮＨＫ旗争奪高校野球
一五年ぶり出場
二回戦敗退　川辺２―３出水中央

なぎなた部

二七年五月　県大会
団体　優勝
個人　田口真耶（川辺）一位六勝
丸野麗那（川辺）二位五勝
上村悠衣（川辺）三位四勝
演技　田口、上村組　優勝
丸野、盛田組　準優勝
二七年七月　全国高校総体
団体　予選敗退
個人　予選敗退

水泳部

二七年五月　県大会
女子一〇〇ｍ　下久保美佑　三位
女子　五〇ｍ　下久保美佑　三位
二七年七月　全九州高校体育大会
標準記録突破　下久保美佑
二七年八月　全国高校総体出場
予選敗退　下久保美佑

女子ソフトボール部

県大会ベスト８

音楽部

二六年度県吹奏楽コンクール団体銀賞

書道部

全日本高校大学生書道展　優秀賞

第一回言の葉大賞

大賞　萩原千聖

入選　西　亜弥

第一六回かわなべ青の俳句大会

学校賞　川辺高校

県教育委員会賞　堂園茉莉

県俳人協会賞　白澤　希

以上部活等については母校資料から概括的に記しましたが、このほか在校生たちは地域に密着したボランティア活動なども積極的に行っており、少人数ながら多方面でよく頑張っているとの印象を強くしました。この経験は必ずや今後の人生を送るうえで大きな力になると確信します。文武両道と言いますが二度とない高校生活を悔いなく燃焼し尽してほしいと念願する次第です。

（三六年卒　南谷記）

表③　過去3年間の進路状況（母校資料より抜粋）

	24年度卒	25年度卒	26年度卒
国立大学	13	16	4
公立大学	15	9	8
公立短期大学	5	3	13
私立大学	60	54	40
私立短期大学	21	15	17
専門学校	38	50	37

表①　平成27年度　公立高等学校一次入学者選抜合格者数（県教育委員会資料より抜粋）

高校名	募集定員	合格者数			充足率
		男	女	合計	
川辺	120	41	63	104	87%
加世田	160	59	68	127	79%
指宿	120	46	51	97	81%
頴娃	40	13	19	32	80%
南薩学区	440	159	201	360	82%

表②　出身中別生徒数（20名以上の中学を母校資料より抜粋）

川辺中	知覧中	万世中	加世田中	金峰中	立神中	桜山中
79名	57名	34名	29名	20名	20名	20名

事務局からのお知らせ

寄付の御礼

昨年、東京同窓会は母校支援の一環として、懇親会の席で募ったサポート募金に、有志からの募金を加え、三十六万円を寄付しました。なぎなた部では、これまで不揃いの剣道教材用防具を借用して試合に臨んでいましたが、この度東京同窓会からの寄付で試合用五名の胴を揃えることができました。

なぎなた部監督、高山裕司先生と部員の皆様から「おかげさまで、大変良い胴が仕上がりました。東京同窓会の皆様には、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。寄贈頂いたこの胴を身に付け、インターハイでは一つでも上を目指し、気張らせて頂きます」とのお礼状を頂きました。

同窓生の皆様有難うございました。

真新しい防具を身に　なぎなた部員

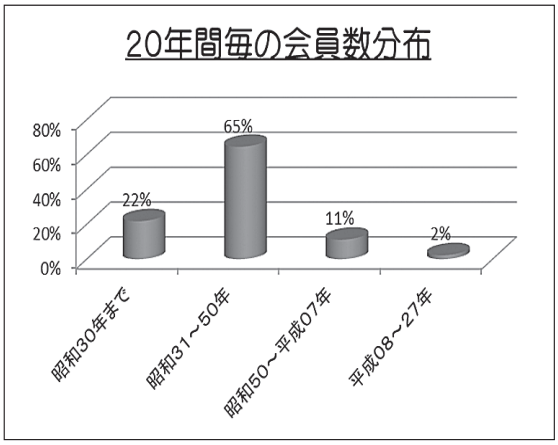
総会・懇親会の報告と課題

第三九回総会・懇親会は昨年を上回る総勢二二四名の参加を頂き盛大に開催することができました。会員の皆様のご理解と、評議員・幹事の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。来年は四〇回記念の節目の年になります。事務局では趣向を凝らし、三年連続の二〇〇名越えを目指しています。ご協力よろしくお願いいたします。

平均年齢は六九歳

東京同窓会登録会員の平均年齢は六九歳となっています。来年は七〇歳を超えてまいります。最高齢会員から今年度新卒会員まで八八年の幅広い年代層にわたっていますが、昭和五〇年代半ば以降四〇年間の年度会員が全体の一割と極端に少なくなっています。この世代の割合を三

割まで伸ばし、六〇歳まで引き下げたいものです。



年会費納入のお願い

同窓会の運営は会員の皆様から頂戴した年会費で運営されています。

総会にご出席頂いた会員は、総会参加者費用の中に含まれていますので、毎年自動的にお支払いいただいていることになります。ご欠席の方には、会報誌送付時に振込用紙を同封して、年会費の支払いをお願いいたして居ります。

振込用紙を送付した方の納付率は五二%となっています。納め易い環境づくりを整備し、せめて国民年金納付率の六三%まで高めたいと願っています。（昭和三八年卒　小原記）

役員改選

任期満了により、東京同窓会の役員改選が行われました。新役員は左表の通りです。今回の改選はこれまでの副会長二名体制を六名に増員し、組織の増強を図りました。また当会の最大の課題となっています昭和五〇年代以降の会員獲得に向け、昭和五〇年代以降の役員を多数登用いたしました。役員一同一致団結して任務にあたる所存でございます。よろしくご指導の程お願い申し上げます。

新役員（第39期～40期）

役職名	役員名	卒業年度
会長	大平　政弘	昭和34年
副会長	南谷　亘英	昭和36年
	川村　敦代	昭和36年
	小原　東洋明	昭和38年
	西宮　起世子	昭和41年
	川原　修二	昭和45年
	椎原　直子	昭和48年
兼任幹事長	小原　東洋明	昭和38年
副幹事長	内村　哲也	昭和50年
事務局長	中原　信寛	昭和52年
副事務局長	林　昭子	昭和50年
	田中　勝之	昭和56年
事務局員	上塩入 浩一	昭和63年
	中薗　雅晴	平成02年
	有村　公美子	平成06年
幹事	石山　道	昭和28年
	上村　又一郎	昭和29年
	辰野　格一	昭和30年
	大坪　剛	昭和32年
	板坂　政治	昭和34年
	千葉　美代子	昭和34年
	畠野　修一	昭和36年
	大渡　義子	昭和36年
	荒殿　孝洋	昭和37年
	川野　博一	昭和37年
	松山　満芳	昭和37年
	堂園　俊秋	昭和38年
	鳥海　睦子	昭和38年
	木村　公紀	昭和39年
	松永　郁代	昭和40年
	深井　麗子	昭和40年
	峯苫　稔三	昭和41年
	中薗　建一	昭和44年
	高倉　都	昭和46年
	川平　悦郎	昭和47年
	内原　健一	昭和48年
	中薗　幸男	昭和50年
	下之薗　ルリ子	昭和51年
	渡辺　淳子	昭和52年
	堂園　孝美	昭和54年
	樋渡　信也	昭和55年
会計監事	森山　昭利	昭和41年
	菊永　道昭	昭和45年
幹事会計	岡本　伊津子	昭和43年
	蔵元　明洋	昭和49年
顧問	中釜　作治	昭和24年
	鯵坂　悟郎	昭和32年
相談役	安田　耕作	昭和22年

第40回 総会・懇親会のご案内

来年度の総会・懇親会のご案内です

(1) 日時　平成28年6月18日(土)
(2) 場所　新宿ワシントンホテル

東京同窓会設立40周年記念の年です
趣向を凝らし、お待ち申し上げます

平成26年度　会　務　報　告

平成 26 年 4 月 13 日	評議員会	於：東京しごとセンター
	議題１　第 38 回総会懇親会について	
	第 38 回総会懇親会の案内状発送作業	
5 月 17 日	新会員（関東地区進学者）へのお祝い＆記念品贈呈	役員
5 月 17 日	事務局総会１ヶ月前の打合せ	於：盈進社
5 月 31 日	リマインドコール実施	役員
6 月 14 日	事務局１週間前の打合せ	於：盈進社
6 月 20 日	本部同窓会・母校との交流会	於：新宿ワシントンホテル
6 月 21 日	特別講演会を開催	於：新宿ワシントンホテル
	第 38 回総会・懇親会を開催	於：新宿ワシントンホテル
7 月 7 日	母校へサポート募金送金	総額　360 千円
7 月 12 日	役員会	於：薩摩の里にて
	議題１　第 38 回総会・懇親会の反省会	
	議題２　会報誌「神戈陵第 38 号」編集会議	
	懇親会	年度幹事・役員
7 月 30 日	全国高等学校総合文化祭応援	茨城県立県民文化センター
8 月 2 ～ 4 日	高校なぎなた選手権応援	東京武道館
8 月 2 日	役員会　会報誌「神戈陵第 38 号」の原稿要請発送	於：盈進社
8 月 17 日	全国高等学校総合体育大会水泳応援	千葉県国際水泳場
9 ～ 10 月	会報誌校正作業	於：盈進社　役員
10 月 19 日	関東知覧会	南谷副会長
10 月 26 日	役員会	於：盈進社
	会報誌「神戈陵第 38 号」の発送作業	役員
	年会費納入依頼	
11 月 11 日	顧問故川口幹夫氏（元ＮＨＫ会長）告別式	大平会長列席
11 月 29 日	評議員会＆懇親会	評議員＆役員
11 ～ 12 月	年会費・寄付金の整理	年会費 553 千円（前年比 136％）
平成 27 年 2 月 21 日	役員会	於：薩摩の里
	議題１　第 39 回総会懇親会について	
2 月 28 日	関東さつま川辺会	大平会長
3 月 28 日	役員会	於：薩摩の里
	議題１　第 39 回総会懇親会について	

平成26年度 川辺高等学校東京同窓会 会計報告

自：平成 26 年 4 月 1日
至：平成 27 年 3 月 31日

収入の部	金額	支出の部	金額
総会会費収入	1,451,000	総会費用	1,510,179
年会費収入　総会出席者 192,000	553,000	会報誌作成費・通信費	257,813
総会欠席者 361,000		会議費（会場費等）	41,755
会報誌広告収入	110,000	通信費	195,024
寄付金（御祝儀含）	465,042	他会出席	20,000
雑収入	10,247	事務用品費	43,705
総会資料代（欠席者）	28,000	雑費	106,151
郵便貯金利息	109	寄付（音楽部、なぎなた部）	360,000
		振込料金	37,014
前期繰越金	1,070,798	翌期繰越金	1,116,555
合　計	3,688,196	合　計	3,688,196

出席者総数　207名

内訳（会員男性　109名、会員女性　83名、学生　1名、会員外　3名、来賓者　11名）

上記の件、監査の結果相違ありません。

平成 27 年　6 月　8 日

会計監事　堂園俊秋 印

〃　馬海晴子 印

編集後記

今年は殊の外暑い夏であった。地球温暖化の影響であろうか、猛暑に加え、極地的な豪雨・大型台風・竜巻等々、全国的に甚大な被害を被った。

被害の検証をするとき「想定外」と言う言葉を耳にしますが、何か免罪符のように語られることには違和感がある。想定するとは想定外の事まで検証がなされていないと想定できないからである。筆者には無作為と同義にしか聞こえない。

白紙撤回された「新国立競技場」計画の迷走等、日本の得意分野であったプロジェクト運営能力は何処かに忘れ去られたのだろうか。社会全体のシステムが脆弱になってきているように思われる。

知識・スキルは高いのに・・、意識教育が疎かになっていないか。我が母校には、知識・スキル教育に加えて、意識教育をバランスよく織り交ぜ、有能な人材を世に送り出して欲しい。

そんなことを考えながら編集作業に携わっている内に東の空が白んできた。締切りも迫ってきた。雑念を振り払って、今日ようやく発行の運びとなりました。ご笑読ください。

（昭和三八年卒　小原記）

編集者：南谷・川村・堂園・鳥海・深井・松永・西宮・森山・岡本・川原・菊永・高倉・椎原・蔵元・下之薗・中原・堂園・田中・上塩入・中薗・有村

先輩、後輩のみなさん高田馬場の郷土料理⊕「薩摩の里」にぜひおじゃったもんせ!!

新宿区高田馬場4-18-10-2F
TEL 03(3363)3258　FAX 03(3350)1483
予約 40名様可能　営業時間 午後5時より午前1時まで
定休日　第1・第3日曜日　高田馬場駅徒歩5分
店主　山下由人(知覧出身、S48年卒)

関東さつま川辺会

第26回総会は、平成28年3月6日(日)12：00よりホテルメトロポリタンエドモント(千代田区飯田橋)で開催致します。川辺出身の方に限らず、ご縁のある方々のご参加をお待ちしております。

会長　川　野　博　一
(川辺高昭和37年卒)

連絡先　〒181-0005 三鷹市中原3-8-30
事務局長　吉　留　浩　一（0422-26-7065）

一流シェフのフレンチをリーズナブルに楽しめる
ビストロピンキオ

オーナーシェフ　小椋　清明
経理担当　小椋　みつ子
（旧姓　小原　４１年卒）

川越市脇田町１７－３３
Tel/Fax　049-226-4567
http://homepage3.nifty.com/pinkio/
東武東上線川越駅東口より２分

俳句を始めませんか！

○天穹俳句会（主宰　佐々木建成）

〒１５０－００２２
東京都渋谷区恵比寿南２－８－３中村ビル602号
高浜虚子の流れを汲む“古趣創生”を旨とする全国屈指の句会です。
俳句雑誌「天穹」（月刊句誌）刊行

○大船俳句勉強会

川辺高校卒業生中心の勉強会
ＪＲ駅前で月１回開催し、俳句の勉強を楽しんでいます。現在10名（内　女性４名）

連絡先：大平　政弘(川辺高校昭和34年卒)
電話：０４５－８９１－０１９７

相続のご心配事
経営の事業承継
ご相談お受けいたします。

・親子、兄弟姉妹で争わず仲良く相続するための準備とは？
・経営を後継者へスムーズにバトンタッチするための問題は？

ライフプランナー
トータルライフコンサルタント
日本FP協会会員
内村　哲也（昭和50年卒）
東京都品川区大崎1-11-1
ゲートシティ大崎
プルデンシャル生命保険株式会社
首都圏第１支社
TEL:03-6675-9837
携帯:090-4962-1820

人と地球にやさしいモノづくりを･･･
第一大宮株式会社

監査役　小原　東洋明
（昭和38年卒）

東京営業所
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-8-10三ツ美ビル3Ｆ
TEL 03-5614-7773　FAX 03-5614-7774
携帯090-5546-8670
M-mail:kobart440803@docomo.ne.jp
URL http://www.no1ohmiya.co.jp/
本　　社
〒566-0045 大阪府摂津市南別府町16-16

「おやっとさぁー、中野でだれやめをしもっそ」

川辺の芋焼酎と沖縄の酒場・T&A

芋焼酎は田倉・八幡・寿。腹ん皮で1杯やいもそ。
名物「廻るソーメン流し」冬もやっちょっど。
中野区中野5-50-9・JR中野駅・北口徒歩6分。
1階は5名。2階は12名様まで。19時～24時。
小薗幸明（昭和46年卒）
080-5015-5352 不定休
時間予算応相談、tanmay.8131@ezweb.ne.jp

労働保険・社会保険・労務管理・給与計算のことなら
川野労務管理事務所
www.kawano-srj.jp
所長　社会保険労務士　岡　清司
社会保険労務士　有村　公美子
（平成６年卒）
〒160-0017
東京都新宿区左門町20-6　内藤ビル1階
電話：03(3353)7755 ／ ＦＡＸ：03(3353)0264
E-mail：info@kawano-srj.jp
URL：http://www.kawano-srj.jp

南谷綜合法律事務所

弁護士　南　谷　知　成（昭和36年卒）
弁護士　南　谷　敦　子（長女）
弁護士　南　谷　博　子（三女）
弁護士　南　谷　智　子（四女）
秘　書　西　　真由子（平成17年卒）

〒810-0041
福岡県福岡市中央区大名1丁目8-10
福岡安藤ハザマビル5F
TEL：092-724-1113
http://minamitani-law.jp/

MAENO SEKIYU

新日本石油株式会社特約店
三井住友火災保険株式会社代理店

株式会社　**前　野　石　油**

代表取締役　前野　政美

■石油事業部■ガス事業部
■住宅関連事業部■損害総合保険事業部
■車検事業部　車検・板金センター
（国土交通省運輸局指定工場　指定番号 鹿-885）
本社 〒897-0211 鹿児島県南九州市川辺町両添1026
TEL0993-56-1336（代）FAX0993-56-3983

みなみたにひろたか
南谷洋至法律事務所

弁護士　南　谷　洋　至
（昭和49年卒）
金峰町白川・阿多中出身

世界一の人生応援団長を目指しています。
いつのときも、神戈陵魂が、心の支えです。

〒810-0041 福岡市中央区大名一丁目8番12号
第二西部ビル3階・南谷洋至法律事務所
TEL 092-736-1531　FAX 092-736-1533
（川辺高校福岡同窓会事務局）

手づくりの技

ひとつひとつ真心込めて…

仏壇の　**瑞光堂**

代表取締役　原口　和秋

鹿児島県南九州市川辺町平山6842番地
（鹿児島銀行川辺支店前）
電話0993-56-1107
URL　http://www.zuikoudou.com/
Fax 0993-56-4568
E-Mail　info@zuikoudou.com

鹿児島特産
さつま あくまき

さつまあくまき本舗

有限会社　**梅　　木**

代表取締役会長　大久保　久通

本社工場
鹿児島県南九州市川辺町平山6794
TEL（0993）56-0126（代）
FAX（0993）56-1184

川辺町
高田郵便局

本部同窓会副会長　高田 政雄（S48卒）

川辺町高田355
TEL.0993-56-1525

地元、川辺の名酒から県内ブランド酒まで多数取揃えております。
御注文いただければ、即、発送致します。

名水百選の街川辺
南薩摩の銘酒専門
(有)蔵元商店
鹿児島県南九州市
川辺町野崎2579-2
TEL（0993）56-4566
FAX（0993）56-3939

森田建設（株）

本部同窓会副会長　森田　剛（S43卒）

川辺町上山田4330
TEL.0993-57-3321
FAX.0993-57-3323

医療法人 菊野会

整形外科・神経内科・消化器内科
リハビリテーション科・リウマチ科
菊野病院

介護老人保健施設
かわなべ寿光苑

川辺訪問介護ステーション小菊
介護支援センター
療育センターあおぞら
理事長　菊野光郎
外医師・職員一同
南九州市川辺町平山三八一五
電話（五六）一一三五

ご案内
第40回 東京同窓会

平成28年6月18日(土)
新宿ワシントンホテル
にて開催されます。

昭和38年、**48年**、58年、
平成8年卒業の
皆さん、年度幹事の年です。
ご協力お願いいたします。

南日本新聞

川辺中央販売所
大坪憲市

知的創造

何を創るかはおまかせします
どのように造るかをお手伝いします

企画編集から製本まで
自費出版を応援します!!
カラー名刺・絵ハガキ
小部数でも安価でできますご相談下さい

Eishin　株式会社 盈進社（えいしん）
代表取締役社長　下園典子（金峰町出身）
〒102-0072　東京都千代田区飯田橋2-3-2 三信ビル
TEL 03-3262-3471㈹　FAX 03-5210-7226
URL：www.eishinsya.co.jp　Eメール：info@eishinsya.co.jp

新役員の選出

特別講演　有村公美子氏

年度幹事　司会

乾杯の音頭　中禮俊則氏

踊り　関東さつま南の会

輪になって踊る会員

万歳三唱　松田健三郎氏

校歌斉唱